

御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」
教区御遠忌テーマ「あなたは、与えられたいのちとどう向き合う？」

教化本部通信

【第55回】

真宗門徒の生活 朝夕におつとめをしましょう・声にだしてお念仏を申しましょう
を回復しよう すずんでお寺の法座に身を運びましょう・報恩講を大切にお迎えしましょう

しんらんweb

検索

真宗同朋会運動50年に向けた運動の再検証。今号から数回に亘り「教団問題」を取り上げる。今回は、教団問題の興りとその本質について。

また「点描」は、前号に引き続き北海道「開教」百年。1993（平成5）年、帯広別院「開教」百年法要における平野修師の問題提起を受け発足した、帯広別院教化委員会・第17組合同による「同和問題検討委員会」について。

真宗同朋会運動50年に向けて

その検証 歩み(五)

教団問題から見る真宗同朋会運動 (I)

教化本部 古卿 誠幸

「教団問題」は、1969（昭和44）年4月24日に第24世法主大谷光暢師から通達された「開申」

（大谷家が内局に対して、大谷家の私的出来事を内局に伝達する文書をいう）から始まった。真宗同朋会運動発足7年後の事である。

従来本願寺は、大谷家の当主が代々親鸞聖人の血脈をもつて、法統の継承者「法主」、同時に本山東本願寺「住職」、さらに真宗大谷派「管長」を兼ねる「三位一体」としてきたが、「開申」は、その「管長」職だけを新門光紹師に譲るというものであった。しかも、内局には事前に知らされないまま突然

記者会見を行うという慣習を破る異例の形で発表された。

これに対し内局は、「管長は宗議会と門徒評議会で推戴する」という宗規を示し拒否した。これによって大谷家と内局は対立し、宗門を二分する争いとなっていった。

*

本願寺は、親鸞聖人没して十年後1272（文永9）年、各地の有力な直弟子たちが僧侶や門徒の心の依りどころとなり、また、教えを正しく伝える為、京都東山大谷に廟堂を建て遺骨を納め墓所とした。この墓所は本来、全直弟子の共有のものとして互いに守り続

けることが必要であった。しかし、多くの直弟子たちは関東や地方に居住し、門徒を持つていた為墓所を守る留守職を委嘱する必要があった。

そこで廟堂の土地寄進者であり、晩年に宗祖の身辺の世話をし、最期を看取った末娘覚信尼に依頼した。覚信尼死後、その子である覚恵上人が二代留守職に委嘱されたが、異父弟である唯善が継承権を主張し、その職を奪い墓所までも独占し、その上、門徒の参拜までも拒否した。この唯善騒動が十年近く続いたが、覚恵上人から三代留守職を譲られた覚如上人は、院庁に上訴し、本所青蓮院の裁決によって、唯善の主張は退けられた。しかし、退去する際、廟堂を破壊し、遺骨と御真影を関東へ持ち去るといふ悪事を行った為、留守職の任免権を持つ直弟子たちは騒動收拾の功績者ではある

が、親鸞の血脈であるがゆえに三代留守職に就くべく覚如上人に対し難色を示しさらに、墓の敷地内の居住さえも許可することはなかった。それは血脈による相続が慣例化することにより、教団が支配される事を懸念したからであり、同時に直弟子たちの地位の喪失を恐れたからでもある。覚如上人は直弟子たちへの服従を誓う事を証明するために12ヶ条の懇望状を提出したが直弟子たちは三代留守職を許すことはなかった。

しかし、覚如上人は若くして教義に精通し東国門弟と深い親交のある長男存覚上人を伴い、関東に赴き勸進しつつ留守職就任の働きかけをして歩いた。東国門弟に絶大な信頼があった存覚という存在があり、覚如上人はやつとこのことで三代留守職に就くこととなった。三代留守職に就いた覚如上人は、廟堂を寺院化して本願寺の寺号を揚げ、関東の直弟子たちを排斥し、親鸞の血と法の正当な継承を主張した。それが本願寺教団の確立へとなっていく。さらに自らがその継承者であることの証明として、法然親鸞・如信（親鸞の孫）の「三代伝持の血脈」という法流を示し、さらに覚如上人自身へと受け継がれていることの正当性を強調していく。

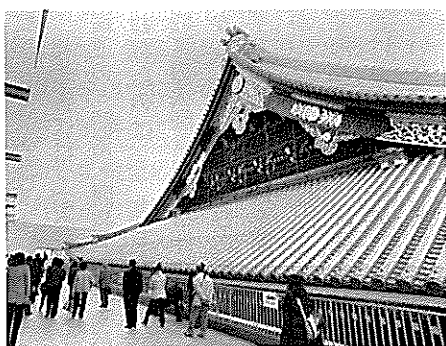
「血脈相承」は仏教全般で使われている言葉である。「実語を相承血脈して」（御文3-19）とあるように、法や教義が血統のごとく師から弟子へと相承されることを示すものであるが、本願寺においては「血脈」という言葉が、本来の意味を失い直系の血統により「法脈」が受け継がれる「血統相承」の意味となっていたところから、教団問題の本質があったのではないだろうか。

宗祖親鸞聖人七百五十四御遠忌 お待ち受け総上山

「御影堂・阿弥陀堂屋根面見学」 ご案内

御修復が完了した御影堂の屋根面や現在の阿弥陀堂の様子を、阿弥陀堂素屋根面から間近で感じただけのコースが新たに設けられました。また、奉仕団で上山される際にも、日程中視察いただくことが出来ます。この機会に是非真宗本廟への上山をご計画頂きませうご案内申し上げます。

期間 2010年1月から6月
末まで
問合せ 教務所(担当今村)まで



阿弥陀堂素屋根から見た御影堂屋根面の様子